

政権、応酬激化を懸念

尖閣諸島に地方議員ら10人が上陸したことは、緊張する日中関係にさらなる影響を及ぼしそうだ。中国で反日デモが激化するなかだけに、野田政権は苦しい対応を迫られている。

政権は原則として尖閣上陸を認めておらず、沖縄県警は軽犯罪法違反の疑いで上陸した10人から事情を聴く方針。だが、尖閣に上陸

した香港の活動家を送検せずに強制送還した直後だけに、与野党からは19日、同情的な発言が相次いだ。

民主党の前原誠司政調会長はテレビ朝日の番組で「香港活動家が上陸した後なので、気持ちはわからないではない」と述べ、自民党の安倍晋三元首相は朝日新聞の取材に「国を思う気持ちの発露ではないか」と

語った。首相周辺も「中国人は送検せず日本人を送検するのはおかしい」と漏らす。ただ、外務省幹部は「中國は自ら仕掛けているのでではなく、日本の動きに反応している。今日の上陸騒ぎは逆効果だ」と指摘。15日

の香港活動家の上陸を野田政権の国有化方針などへの「反応」ととらえていただけに、中国側をさらに刺激しかねないと警戒する。

中国で広がる反日デモには「中国政府も本音は尖閣問題を悪化させたくないはずで、沈静化に動いてくれる」（首相周辺）という期待感もあるが、官邸高官は「（日本人上陸）のタイミングがよくない。日中の応酬になる」と懸念した。

事態がエスカレートしないよう、政権は中国側への牽制を強める。長島昭久首相補佐官は19日のフジテレビの番組で「（中国人上陸の）背後に政府の意思があるかどうか分析する」と強調。山口壯外務副大臣も記者団に「（次は）絶対に上陸させない」と語った。

程永華駐日中国大使が19日夕、日本人の尖閣上陸に電話で抗議してきたのに對し、佐々江賢一郎外務事務次官はこう反論した。

「そもそも今回の動きは香港活動家による上陸が背景にある。中国各地のデモでは一部で日本の国旗が燃やされた。厳重に抗議す